

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成26年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム	申請大学名	東北大学
申請大学長名	里見 進		
プログラム責任者	花輪 公雄		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のプログラム開始以来、カリキュラムの整備、実習科目のための実験室等の教育インフラの整備、特任教員等の採用、広報活動、更にインターンシップ先の確保などが行われている。本プログラムが掲げる物質理工学リーダーを養成するというビジョンが明確であり、プログラムが順調に進められている。 ・当初は、M1の学生を25名選抜する予定であったが、平成26年度第1期生としてM1の14名に加え、M2の編入生11名が選抜された。M2の編入生は、プログラム側が要求する単位取得のための負担がM1に比べて大きい、特任教員2名により学習面、生活面でのケアがなされており、また編入生のプログラムに対する理解も意見交換を行った学生については十分に高いことが確認できた。 ・上記のM2の編入生の存在により、当初予定よりも1年早く修了生を輩出することになる。この第1期修了生の存在は、本プログラムでどのような学生が養成されるのかを内外に示すモデルとなるので、特に重要である。 ・カリキュラムの編成についてプログラム内で検討を行い、学生が修得すべき単位数に占める専門教育とマルチディメンジョンに関わる科目の比重を見直し、申請時よりも専門科目の比重を増やす微調整を行ったことは評価できる。 ・意見交換を行った学生の過半は、本年度に実施するインターンシップ先が既に決まっており、その他の学生についても、学生がインターンシップ先を選ぶ際の支援をプログラム側から得られるようになっている。 ・プログラムに参画する学生が所属する専攻の指導教員やプログラム担当教員とのface-to-faceでの対話の機会を持つなど、プログラムの趣旨についての理解を浸透させるための努力が払われている。 ・支援期間終了後もプログラムを実質的に継続するためには、予算確保の努力が必要であるが、そのためにも本プログラムでリーダー人材を育てた実績を内外に示すことが重要である、との認識がプログラム責任者から現地視察時に示されたことは高く評価できる。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムに参画する学生のメンタルケアは、今後一層重要となると考えられる。学生にプログラムが整備しているメンタルケアの体制を周知するとともに、学生と年齢が近く、気軽に相談ができるようなメンターを配置することが望ましい。 ・プログラムの質保証について評価、助言を行う評価助言委員会を早急に設置する必要がある。また、学生主体のイベントにPOを招くなど、PO制度を活用して、プログラムの進捗について外部からの助言を得ることが望ましい。 ・プログラムに応募した学生数が、平成26年度は当初の想定よりも少なかったとの説明を受けた。プログラム修了生の高いクオリティを確保するためにも、留学生も含め、優秀な学生がより多く応募するよう、プログラムの広報等についての更なる取組が必要である。 			